

・海外感染症流行情報 2026 年 9 月

（1）全世界：インフルエンザと COVID-19 の流行状況

日本では 8 月末からインフルエンザの早期流行が発生しており、検出されるウイルスは A（H1N1）型が多くを占めています（厚生労働省 26-9-18, 国立健康危機管理研究機構 26-9-18）。東南アジアや南アジアでも 6 月ごろから A（H1N1）型の流行がみられており、9 月には韓国など東アジアにも拡大しています（WHO 西太平洋 26-9-10, WHO 南東アジア 26-9-9, ボストン大学 BEACON 26-9-15）。

COVID-19 については、9 月になり日本、米国、ヨーロッパなどで患者数が増加傾向にあります（厚生労働省 26-9-18, 米国 CDC 26-9-18, ヨーロッパ CDC 26-9-18）。検出されるウイルスはオミクロン株の XFG 型が世界的に多くなっていますが、日本では BA.3.2 型が半分近くを占めています（国立健康危機管理研究機構 26-9-18）。

（2）アジア：アジアでのデング熱流行状況

アジア各地では 9 月もデング熱の流行が続いています（WHO 西太平洋 26-9-17, WHO 南東アジア 26-9-9）。今年はカンボジア、マレーシア、ベトナム、バングラデシュ、スリランカで、例年より多くの患者数が報告されています。各国の雨期はそろそろ終りに近づいており、患者発生ピークは超えた模様です。

（3）アジア：インドでのマラリアリスク

インドではマラリアの流行が東部のオリッサ州などに限局していますが、西部のムンバイでも 2025 年は 2,000 人以上の熱帯熱マラリア患者が報告されました（ボストン大学 BEACON 26-9-17）。これは 10 年前に比べて 6 倍の数です。この原因は東部からの労働者の流入と考えられています。ムンバイなどインド西部に滞在する際も、蚊に刺されない対策をとってください。

（4）アフリカ：コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱の流行

コンゴ民主共和国・北東部でのエボラ出血熱の流行は、9 月に入りピークを超えつつあります。患者数は 9 月中旬までに 7,773 人で、1 ヶ月で約 2,400 人増加しました（WHO 26-9-10, ヨーロッパ CDC 26-9-23）。このうち 3,759 人が死亡しています。今後も WHO を中心とした制圧が続けられますが、既に 2014～16 年に西アフリカで発生した史上最大の流行（患者数約 28,000 人）に次ぐ規模になっています。

（5）アフリカ：西アフリカ・セネガルでのジフテリア流行

今年、西アフリカのセネガルでは、首都のダカールなどで 57 人のジフテリア患者が発生し、8 人が死亡しました（ボストン大学 BEACON 26-9-11）。ジフテリアは呼吸器や皮膚を傷害する細菌感染症で、飛沫感染や接触感染で拡大します。同国では今年 10 月末から 11 月中旬まで第 4 回ユースオリンピックが開催される予定で、日本から渡航する際には、三種混合ワクチン（ジフテリアが含まれる）の接種を受けておくことが推奨されます。

（6）米国：麻疹患者の増加

米国では今年に入り麻疹患者が増加しており、その数は 9 月中旬までに 3,200 人以上になりました（米国 CDC 26-9-23）。9 月現在、ペンシルバニア州やオハイオ州で患者発生が多くみられます。今年は昨年の年間患者数（2,289 人）を既に超えており、過去 30 年で最大の流行となっています。患者の 6 割以上は 19 歳以下の若い世代で、ワクチン接種率の低下が流行の原因と考えられています。

・日本国内での輸入感染症の発生状況（26 年 8 月 10 日～26 年 9 月 6 日）

最近 1 ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立健康危機管理研究機構・感染症情報提供サイトの感染症発生動向調査を参考に作成しました。<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/idwr/2026/index.html>

（1）経口感染症：輸入例としてはコレラ 1 人、細菌性赤痢 5 人、腸管出血性大腸菌感染症 46 人、腸チフス 1 人、パラチフス 3 人、A 型肝炎 5 人、E 型肝炎 1 人、アメーバ赤痢 7 人、ジアルジア症 1 人が報告されています。腸管出血性大腸菌感染症

は前月（32 人）から増加しており、韓国での感染が 35 人と大多数を占めています。単包条虫症が 1 人報告されており、バングラデシュでの感染でした。本症は肝臓に腫瘤を形成する疾患で、イヌやキツネの糞便内に排泄される虫卵を経口摂取して感染します。

（２）節足動物が媒介する感染症：デング熱は 25 人報告され、前月（14 人）に比べて増加しました。感染国はカンボジア（7 人）、インド（5 人）、マレーシア、ベトナム（各 4 人）が多くなっています。今年のデング熱輸入例の総数は 83 人で、昨年同期（110 人）に比べて減っています。マラリアは 4 人で、感染国は赤道周辺のアフリカが 2 人、パキスタンが 1 人、ソロモンが 1 人でした。ジカ熱が 2 人報告され、インドネシアとフィリピンでの感染でした。

（３）その他の感染症：麻疹の輸入例は 1 人で、バングラデシュでの感染でした。エムポックスの輸入例は 1 人で、オーストリアでの感染でした。レプトスピラ症の輸入例は 1 人で、ラオスでの感染でした。